

9日 水曜

ホセア

7:1 「わたしがイスラエルを癒やすとき、エフライムの咎、サマリアの悪はあらわになる。彼らが偽りを行い、盗人が押し入り、外では略奪隊が襲うからだ。

7:2 しかし、彼らは考えもしない。わたしが彼らのすべての悪を覚えていることを。今、彼らの悪行は彼らを取り囲んで、わたしの面前にある。

7:3 彼らは悪事によって王を、偽りによって首長たちを喜ばせる。

7:4 彼らはみな姦通する者。パンを焼くときの燃えるかまどのようだ。生地がこねられてから、ふくらむまでは、燃え立つことをやめている。

7:5 われわれの王の日に、首長たちは酒の熱で気分が悪くなり、王は嘲る者たちと手を握る。

7:6 彼らは心をかまどのようにして、陰謀を企てる。夜通し、パンを焼く者は眠るが、朝になると、かまどは燃え立つ火のように燃えるのだ。

7:7 彼らはみな、かまどのように熱くなって、自分をさばく者たちを食い尽くす。自分の王たちもみな倒れる。彼らのうちだれ一人、わたしを呼び求める者はいない。

7:8 エフライムは、もろもろの民の中に混じり込む。エフライムは、片面しか焼けていないパンだ。

7:9 外国人が彼の力を食い尽くしても、彼はそれに気づかない。白髪が生えても、彼はそれに気づかない。

7:10 イスラエルの高慢はその顔に表れている。彼らは、自分たちの神、【主】に立ち返らず、



このすべてがあっても、主を尋ね求めない。7:11 エフライムは愚かな鳩のようで、良識がない。エジプトを呼び求め、アッシリアに飛んで行く。

7:12 彼らが赴くとき、わたしは彼らの上に網を張り、空の鳥のように彼らを引き降ろす。彼らの群れの音を聞くと、わたしは彼らを懲らしめる。

7:13 わざわいだ、彼らは。わたしから離れ去ったのだから。彼らは、踏みにじられるがよい。わたしに背いたのだから。わたしが贖い出そうとしているのに、彼らはわたしに向かってまやかしを言う。

7:14 心からわたしに向かって叫ばずに、自分たちの床の上で泣きわめいている。穀物と新しいぶどう酒のためには群がって来る。しかし、わたしからは離れて行く。

7:15 わたしが訓戒し、彼らの腕を強くしたのに、このわたしに対して悪事を企む。

7:16 彼らはいと高き方に立ち返らない。彼らは欺きの弓のようだ。彼らの首長たちは、ののしったために剣に倒れる。これはエジプトの地で、嘲りのもととなる。」

イスラエルの民がいかに主から離れてしまったかを述べています。「彼らは…王を喜ばせ」とあります。その興味関心は神にではなく、人間にあります。その場合は有力者に心が向いてしまいます。

「心からわたしに向かって叫ばずに、自分たちの床の上で泣きわめいている。」とあります。これは神様から離れた人の希望のない姿です。神様から離れた結果がその苦しみであるなら、せめて主に向いて助けを求めれば良いのですが、それさえ忘れてしまった姿です。

そうならないように、今から自分の思いを主に

向けていきましょう。完全な者であることを、主は求めてはられません。主に向いた心、主を慕う思い、主に頼ることから始まるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

